



平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞団体

センスオブアース・市民による自然共生バンゲア からのお知らせ



資源リサイクル3R

50年後の板橋区

キレイな町
通いやすい町
道にゴミが落ちていない町

リサイクルされたものはあふれる町
憧れの町
ごみ分別が自然豊かな町

そのために私たちがやるべきこと

ごみの分別
ムダを減らす
3Rを徹底する

モノを大切に使う
むだを減らす
リサイクルを心がける

自分たちが作る希望のまち

緑豊かなまち
安全なまち
住みやすいまち
自然豊かなまち
きれいなまち

温暖化防止のためにできること

50年後の板橋区にしたいまちか

鉄道の利用
白物を買う
エコカーを買う

（建物で自然の力を活用し、冷暖房の効率を上げる）
窓が空気に通気しやすい町
自然の力を活用する

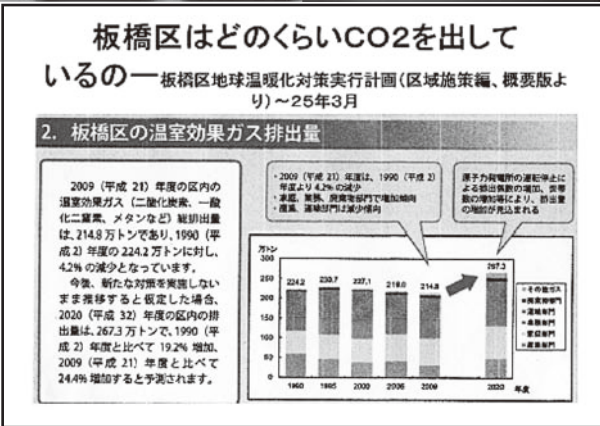
そのために自分たちがやるべきこと

エコカーを買う
自然の力を活用する

1. 板橋の緑を感じ、その魅力を次の世代へつなげる

公園を作る
川をキレイに保つ
水辺をキレイにする
緑を増やす

空気をきれいにする
空気をキレイにする
ゴミを減らす
自然を大切に
植樹



～板橋でも進む温暖化～
50年後のいたばしを考えよう—理科
高島第一中学校 3年生133名
3月3日～4日

「板橋も温暖化の影響を多く受けているんだと初めて知った。」「温暖化の進行は自分たちがすごく関係がある。」「自分の街の50年後がどうなっているかをしっかり考えた。」「温暖化防止のために、やれることは何でもやる。」

(次ページのグラフ「これから環境のために自分が取り組むこと」参照)

卒業式まで、あと2週間に迫った、ひな祭りの日、高島第一中学校の3年生が理科の最後の単元、「生物と環境—自然環境の調査と環境保全」の中で、2時間のセンスオブアースによる「50年後の板橋を考えよう」の授業プログラムに取り組みました。60枚近い資料を読み取りながら、考えをまとめ、自分たちのふるさとの板橋がこうなってほしいという夢を描き、そのために自分が



取り組んでいくことを出し合い、発表しました。「環境をよくするために何でもやる」と答えた生徒が6人もいて、地球温暖化問題をまっすぐに受け止める純粋さ謙虚さに感動、短い時間でまとまる協働学習と発表までの手際よさに感心しました。

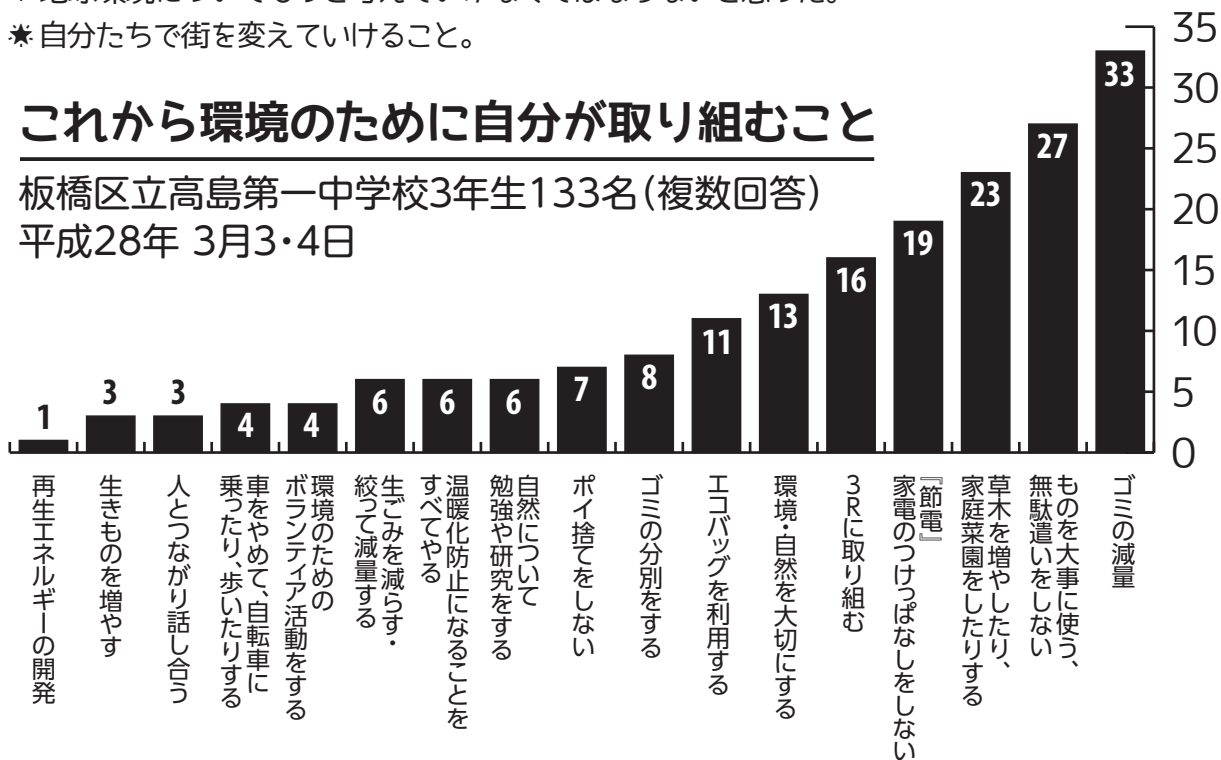
《授業で考えたこと～一部引用》

- ＊自然は人を豊かにしてくれているのに人がそれを破壊しているので改善することが必要だ。
- ＊地球は今大変な状況にあるのだと思った。

- ＊自分たちで予測したり資料を見たりして楽しかった。
- ＊二酸化炭素濃度が年々増加しておりびっくりした。
- ＊環境についてたくさんのことを深く考えることができ、とても良い2時間だった。
- ＊板橋が東京の中で暑い地域というのを初めて知った。
- ＊地球環境についてもっと考えていかなければならないと思った。
- ＊自分たちで街を変えていけること。

これから環境のために自分が取り組むこと

板橋区立高島第一中学校3年生133名(複数回答)
平成28年 3月3・4日



- ＊環境を良くしていくのはとても大変なことだけれど、良くしていかないといけない。
- ＊自分たちで環境を守らなければいけない。
- ＊環境を変えなければこの先危ない、板橋が壊れる。
- ＊板橋の環境を良くしたい。
- ＊地球温暖化を少しでも止めようと思った。
- ＊二酸化炭素を減らさなければならぬ。
- ＊発表をしたことで他の意見が聞けていろいろなことが学べたし知ることができた。
- ＊地球温暖化がすごく大変なんだ。たくさんのがつながっている。

- ＊未来の板橋が緑豊かな町であるためにできる事はたくさんある。
- ＊ここまで板橋の温暖化が進んでいるとは思わなかった。
- ＊中学生ができる事は限られているけれども一人一人の小さなたくさんの「意思」を集めて未来への大きな「行動」にしたい。
- ＊自分が努力しないと温暖化を防げないということがわかった。
- ＊今、私たちが努力をしなければ50年後の板橋が大変なことになるということを改めて実感できた。



グラフのように、たくさんの行動目標が出され、環境の問題にまっすぐ取り組む純粋さと意欲に板橋の未来に明るい光を感じました。

3年理科 小川修三先生—資料が非常によく、細かいデータを用意していただいた。特に板橋区のデータだけに身近に感じてよかった。高島平の歴史や地形から環境問題を見ている場面は、とても面白かった。実際通っているところでもあり、昔の状態からの変化を知り、その変化の中で問題が起きているのだという説明があったので非常に納得がいった。



板橋第六小の風

1年生 61名 2月25日

風となかよし～「なおちゃんが泣いています。お日さまの子サーターと雨の子チャップ、風の子フーが心配して声をかけると……」

1年生は紙芝居の中の子どもたちと一体化していきます。8枚ばねの風車は、羽の重ね方をとても頑張って作り上げ、体育館狭しと走り回りました。



おもしろかったことやわかったこと ★風車を作るのがむずかしかった。 ★風車がうまく回ってうれしかった。 ★紙コプターはいろんな飛ばし方がある。 ★紙コプターがよく飛んだ。

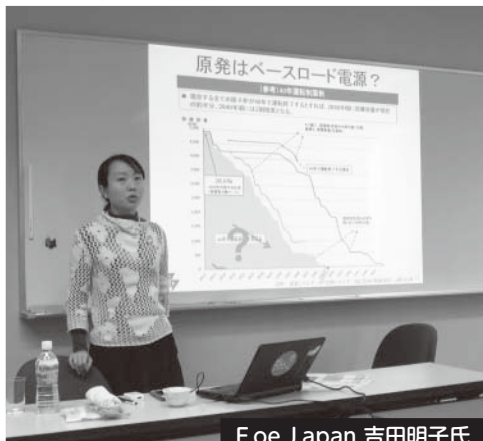
「風は楽しく遊べる」「生活の役に立つ」「風はなくなるらない」を確かめました

—電気を選び、使う時代に—

～あなたはどこの電気を使いますか～

講演会◎主催 SOE 2月28日

講師 国際環境NGO FoeJapan 吉田明子氏



Foe Japan 吉田明子氏

4月より電気事業法の施行により、誰でも、どこの電気を選択してもよいことになりました。SOEでは、4月からの電気の自由化・選択の機会開始に当たって、どの電気を使うか、エネルギーをどう生み出していくかを学ぶために、2/28の朝日朝刊に取り上げられたFOE吉田明子氏を招きました。

吉田明子氏の指摘一右：パワーシフト宣言参照

- 電気を選ぶこと。安さを第一に宣伝しているが、電源（エネルギー源）が大事。
- 20～30社が再生エネルギーを目指しているが、一般消費者向けの送電を始められるのは4社。電源は太陽光・バイオマス・風力が中心。これから先、家庭向け準備が進む会社が出てくるので、2016年以後、契約をし直すことができる。
- パワーシフト・キャンペーン（自然エネルギーを重視する電力会社を選ぼう）が重視する点—自然エネルギーの電気を自由に使えるようになるには、もっともっと市民消費者としての自然エネルギー買いたい宣言が必要。
- 消費者市民が自分で発電活動をする事ができる。



パワーシフト宣言
<http://power-shift.org>

参加者の学び

- ★実際に届く電力は、なんのエネルギーによるかは不明。
- ★安い電気を求めると原発推進につながる可能性がある。
- ★4月にすべて決めてしまわなくてはならないのではなく、とりあえず、今の会社から違う会社にすればいい。



- ★石炭・火力発電の新規建設が47基あることに驚いた。
- ★私たちが再生エネルギーの発電をする会社を選ぶことにより、そのようなエネルギー会社を増やすことにつながる。
- ★石炭・原子力発電の割合がゆり戻されている。
- ★政府の非化石電源に再エネのほか原子力も含まれる。
- ★各業者がどのような情報を開示しているかを見届けること。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
 e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp